

本のひろば

出会い・本・人

ゴードン・W.レイスロップ教授との出会い

平岡仁子

本・批評と紹介

立野泰博 著

被災地に立つ寄り添いびと 賀来周一

佐々木勝彦 著

共感する神 森泉弘次

古橋昌尚 編

今日のアジアの教会における

インカルチュレーション 山岡三治

藤原孝行 著

聖書にもとづくイエス様の

受難と十字架 溝口捷支

W.F.オールブライト 著／小野寺幸也 訳、木田献一 監修

石器時代からキリスト教まで 池田 裕

ジョン・ドミニク・クロッサン 著／飯郷友康 訳

イエスとは誰か 島蘭 進

S.ルビン、F.アンプロジェッティ 著／

八重樫克彦、八重樫由真子 訳

教皇フランシスコとの対話 ホアン・アイダル

八木谷涼子 著

もっと教会をいきやすくする本 小嶋 崇

清水光雄 著

ウェスレーをめぐって 岩本助成

関西学院大学神学部 編

関西学院大学神学部ブックレット6

若者とキリスト教 吉岡恵生

近刊情報

書店案内

7 JULY
2014



新教出版社
創立70年記念
連続神学講演会
のご案内

7月26日 佐藤 優氏 「危機を克服する福音」
——フロマートカの受肉論に学ぶ
10月25日 荒井 献氏 「最後のパウロ」
——使徒行伝28章30—31節に寄せて
いずれも土曜午後2時より日本基督教団 信濃町教会にて。
入場無料ですが、定員がございますので、事前にメールかファク
スでお申込をお願いします。

連続講演会第1回がご要望に応じて冊子となります。
6月25日 宮田光雄著 バルメン宣言の政治学
——バルメン宣言80年を覚えて
◆B6変判・本体5000円
4月に行われた第1回講演会が好評で、ぜひ読める
かたちにご要望が多く寄せられましたので、
急遽冊子化いたしました。



ブルトマンとナチズム

ルドルフ・ブルトマン 著／深井智朗 訳・解説

ナチが全権掌握した1933年に行った特別講義「現在の状
況における神学の課題」、アリア条項導入を批判する「ア
リア人」、34年のマールブルク大学礼拝説教「創造者なる神へ
の信仰」の3編を収録。実存論的聖書解釈を標榜した神学者
ははたして非政治的だったのか。
◆四六判・本体1850円

6月下旬



共に生きる生活

「ハンディ版」

ディートリヒ・ボンヘッフアー 著／森野善右衛門 訳

2004年の改訂新版に手を入れてさらに読みやすくし、文
字も大きくした普及版。ナチとの厳しい闘い最中に書き上げ
たられた本書は、キリスト者の霊性を尋ね求める人に今なお
尽きない示唆と励ましを与え続ける名著であり、彼の書物の
中で最も広く愛読されている。
◆B6変判・本体1600円

6月13日

好評の既刊

神の国の種を蒔こう

キリスト教メッセージ集 没後50年

ヴォーリス 著／木村晟監修

建築家、教育者、実業家、そして伝道者
として八面六臂の活躍をした著者。彼を
根底で支えた福音信仰の本質を示す70余
編の短文集。
◆四六判・本体2000円

私の聖書物語

宮田光雄 著 イースター黙想

ボンヘッフアー、バルト、フルトリツカ、
シヤガールといった神学者や現代美術家、
そしてパウロの復活観を辿る。巻末に信
仰的自伝収録。
◆B6変・本体1800円



出会う・本・人

ゴードン・W・レイスロップ教授との出会い——平岡仁子

私が初めて、フィラデルフィア・ルーテル神学校礼拝学名誉教授であられるゴードン・W・レイスロップ教授にお目にかかったのは、十数年前の秋学期が始まる約一週間前でした。礼拝学の世界でその名を知らぬ人はいないレイスロップ教授でしたが、当時、日本では知る人ぞ知る世界の権威でありました。けれど幸運なことに、アメリカルーテル教会のサポートにより最高の指導教授であるレイスロップ教授と運命的な出会いをすることになったのです。

レイスロップ教授は礼拝学の分野において世界を牽引する研究者の一人であり、西方・東方教会においてその影響下にある研究者は数知れません。かくして弟子の末席に座する私も、教授が持つ知識の広さ・深さ・高さに圧倒されることになりました。しかもそれにもかかわらず、学生に対して謙虚、親切、丁寧であることこの上なく、全ての学生たちから、熱い尊敬と深い信頼を得ておられる教授且つチャプレンでした。私はそこで世界中で最も読まれているレイスロップ教授の三部作“*Holy Things*” “*Holy People*” “*Holy Ground*”と出会いことになるのです。

その内容は著者のあまりにも深い神学的洞察に読者の知的探究心が熱く燃えてくると同時に、その神学的意義に涙がこぼれるほど神の深い憐みを感じ、感動してしまふものでした。私はまるで

宝石箱の中に手をつ突っ込み、その中からキラキラ輝く最高の宝の一つ一つ丁寧に取り出してゆくかのように、本の1ページ1ページの全ての言葉を光り輝く宝物のように感じながら、一語一句言葉の意味を深く噛みしめ読み続けたことを思い出します。しかもその一方で、レイスロップ教授の批判は手を緩めることがなく、警告と招きは常に表裏一体となって読者に迫ってくるのです。

その頃、私は読み終えた後、本に教授のサインを頂くことにしていました。三作目を読み終えた時も、いつものようにサインをお願いに行きました。すると教授は私から本を取り上げたと思っただけで、すぐにパラパラとページをめくったのです。「あっ」と思わず叫びました。私は印をつけたり、また感想・感動を小さな文字で隙間に色々書き連ねていたのに誰にも見せなくなかったのです。しかし、レイスロップ教授はそれに気づいていてわざと取り上げたのでした。しかしその瞬間、教授は私にこう言われまして。「私の本をこんなふうに読んでくれて、ありがとう。」これが真の世界の権威というものなのだとか感動したのはもちろん、この私でした。

(ひらおか・ひろこ 日本ルーテル神学校専任講師、保谷教会牧師)

キリストのわざの記録
立野泰博著

被災地に立つ寄り添いびと



賀来周一

本書は、ルーテル教会が国内外の支援を受けて行った「ルーテルとなりびと被災地支援プロジェクト」の記録である。しかしながら、本書を読むならば、単なる支援の記録とは異なることに気付かれるであろう。そのちがいは一言でいえば、キリストのわざの記録となっていることにある。

被災地の支援は、小さなキリストになることから始まった。本書はその汗と涙の記録である。働きの実りは一年後の三月一日、支援を受け入れてくれたお礼のため仮設住宅を一軒一軒廻るスタッフが差し出す花に添えた言葉「何もできませんでした」に添えて、しっかりと手を握った上で返ってくる「ありがとね」に集約されている。

災害直後の支援の対象者は、来る日も来る日も避難所で朝は菓子パン、昼はコンビニのおにぎり、夜も同じような冷たい弁当を食べ、「早く人間になりてえ。このままじゃ、動物になってしまう」と言うおばあさんであり、津波が押し寄せた小学校の前で孫の赤いランドセルを眺めながら、「牧師さん、あの子は見つかるよね」と語りかけるおばあさんであり、「海さ、悪く

ね。今まで海からいっばいいいいっばい、恵みを受けてきたさ」と言いつつ海をじっと眺める漁師さんだった。

「神さまは、なぜこんなむづかしいことをなされるのか」「神の怒りだ」などという者は、遠くのほうから眺めているに過ぎない。著者の立野牧師は被災地に立って「何も言えなかった」と言う。支援する者は、その場にいなければならぬ。そして何もできないという現実の中に、ひたすら寄り添い人たらしめられていくのである。著者は、そこにキリストのわざを発見する。

その意味からすれば、この記録は、教会の外に起こったキリストご自身のわざである。まさしく、「わたしには、この困いにはいっていないほかの羊もいる」とのキリストのわざの實踐が要請され、そのための小さなキリストの教会のわざであろう。教会であればこそ、キリストの出来事が至るところに発見される。津波でわが子を亡くし「あの子は神さまがいないと救われない」と言ったお母さん、あるいは「おら、何もいらね。あんたらが来れば、元気になるべ。あんたらキリストさんしょってるからな」との年配者の言葉にキリストの臨在を知る。「心

のケアは仕事と家があれば九〇％達成する」との経験から出てきた言葉は、心のケアとは被災者の話を聞くことで人々が心の安定を取り戻し、頑張る気持ちを引き出すのだとの思い込みを見事にひっくり返す。目の前には十分過ぎるほど頑張ってきた人たちがいることに気付かなければならないのだ。反省を促される出来事が、いくつもここにあった。

この人たちの支援活動から学ぶことは多い。大規模な援助活動を行うところでは、あれもあるこれもあるというので、要らないものまで配ったという。しかし、人はそれぞれに必要なものがちがうのだ。必要は、あり余るものを分配することでは満たされない。「ルーテルとなり人」のスタッフたちは「何が欲しいですか。わたしたちはそれを探してきます」と聞いて廻ったそう。

またある時、「分ち合いプロジェクト」支援に応じて、全国から集まった日用品を欲しいだけ持って帰ってもらうように配

ったさい、品不足となり、炎天下に並んだ二〇〇人ほどの人に配ることができなくなった。スタッフたちは土下座をして謝ったが、それに応えるように、あるおばあさんが言う。「貰う方も考えねば。何、みんなでわかち合えはいいことだ」と。このようにして、イエスが五千人を養われたしるしを想起させる出来事も起こった。

まさしくキリストが小さなキリストを通して働かれた証を見ろ。それがこの記録である。

(かく・しゅういち) 元ルーテル学院大学・神学校教授
(四六判・三五六頁・本体二〇〇円＋税・キリスト新聞社)

キリスト新聞社の本

Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.



好評発売中!

▼神学者として注目を浴びる著者による神学的随想集 落ち穂ひろいの旅支度 芳賀力 著

本書は「思索の小さな旅」(キリスト新聞社刊)に続く随想集で、旅に寄せての雑感を書き綴ったものである。神学的紀行文を書くについては、筆者のような者にとって、収穫のおぼれに与るような落ち穂ひろいの趣きがあります。とは言っても限られた日程なので、学会に向いたついでの折りに強行軍を敢行することもたびたびでした。あまり堅いものはかりでは食傷気味になるので、自分のブログに気軽に記したものを少し加えました。(本書あとがきより)

■四六判 190頁 1600円

キリスト新聞社
351-0114 埼玉興和光市本町 15-51
和光プラザ2階
TEL. 048-424-2067 (価格税別)
E-Mail. support@kirishin.com
URL. http://www.kirishin.com

三人の神学者が戦争体験を経て共有した思想
佐々木勝彦著

共感する神

非暴力と平和を求めて



森泉弘次

『イスラエル預言者』（教文館）によって不朽の名を残したユダヤ教神学者A・J・ヘッシエル、『水牛神学』（教文館）の著者として知られる世界的な神学者小山晃佑、および『希望の神学』（新教出版社）によって二〇世紀最後の数十年間、指導的
神学者の一人として活躍したユルゲン・モルトマン。この三人の神学者の生涯と彼らが共有した「共感の神学」思想の本質、影響および未来への約束について書かれた興味深い本です。

キリスト教系大学で長年聖書や神学を教えてこられた方らしく、牧師や神学者だけではなく、戦争と平和の問題に関心を持ち、平和を真剣に希求する一般学生や一般読者にも近づきやすいスタイルで書かれています。

比類ない重要性にもかかわらず、日本では神学界ですらあまり知られていないヘッシエルや小山について著者のような真摯な神学者が主題的に論じる本書の意義は大きいと思います。

通読してもっとも印象深かったのは第一部「A・J・ヘッシエル」でした。著者はトマスの神学大全で知られている「存在の類比」に対してヘッシエルが強調した「行為の類比」の真義

を探究します（七八頁以下）。その探究は示唆に富んでいます
が、ヘッシエルの用語、deedsに『人間を探し求める神』（教文館）の訳者が「善き業」という「訳語」をあてたことに対して、疑問を呈しています。主な英語辞典にはdeedの訳語に「善行」「善き業」という言葉が載っていない等々の理由から。しかし訳語の決定は辞書の定義に依拠するだけではできません。文脈が大事です。原書を注意して読めば、deedsがヘブライ語の「ミツヴォット」の同義語として用いられていることは明らかです。英語のdeedは良い意味で用いられますが、それに対応する日本語「行為、行動、業」は修飾語によって善行にも悪行にもなります。つまり価値的には無記です。それで「聖なる」か「善き」という形容詞をつけるのです。英語のgoodはGodという言葉と関係があります。古英語ではgoodはgodと綴られていました。宗教改革後「善き業」は救済観念と結びつけられて悪い連想を持つに至りました。訳者は本来の意味トヴ（詩篇三篇六節、ミカ書六章八節）の語感を回復したくこの訳語を用いています。

第二部小山晃佑論も、翻訳を通してこの稀有な神学者を日本の読者に紹介したく努力してきた者として、多くの読者に読んで頂きたい文章です。ヘッシエルに導かれ、神自身の経験としての歴史観と、個々の人間の、ひいては人類の運命を憂い、連帯の苦しみを担う「共感する神」の神学を追究、実践した小山晃佑の神学的軌跡を著者は辿ります。小山の隣人学の原点を、ドゥルルの大学神学部の学生時代、州立病院の臨時ワーカーとして托された瀕死の病者との悲痛な経験に見た著者の洞察は鋭い。

主著『富士山とシナイ山——偶像崇拜批判の試み』（邦訳が今年の八月頃教文館から刊行される予定）については、主に最終章「十字架の神学」にしばって、偶像礼拝は必然的に暴力に通じる、真の平和は「他人は救ったのに、自分は救えない」イエス・キリストと共に到来する、キリスト教神学も自説を絶対化するれば偶像礼拝に陥るといふ小山の神学的洞察を浮き彫りにしています。

第三部「J・モルトマン」は、晩年の自伝『わが足を広きところに』（新教出版社）に依拠して、モルトマンの生涯を辿る。彼は従軍して一九四五年二月連合軍の捕虜となり、九月スコットランドの収容所内で見たと写真を通して「ナチの犠牲者の眼中に映る自分たちを見た」（本書三五九頁）。彼を絶望から救ったのはスコットランド労働者の家族の親切と聖書でした。

『十字架につけられた神』（新教出版社）を通して著者は、ヘッシエルの『イスラエル預言者』のバトスの神の神学をモルトマンが「読み、感激し、自らの神学基礎として受け入れ」たことを明らかにします（二八〇頁）。本書の全三部を貫く一筋の糸はエイブラハム・ジョシユア・ヘッシエルでした！

神学ダイジェスト116号

急速な変化を遂げる現代社会。その中において、多様な価値観に直面するキリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかえる信仰への真摯な問いに光をあてる。

2014年6月発行
A5判120頁
定価630円・送料82円

特集 二十世紀の神学者（後）

- 巻頭言 下からのキリスト論
- 神について語る—解放の神学の方法— G・グティエレス
- 解放のプロセスとイエス・キリストにおける救い L・ポフ
- ラテンアメリカ・罪とゆるしの地— J・ソプリノ
- イエスの貧しさに倣うとは A・ビエリス
- フェミニスト神学の役割 E・シユスラー=フィオレンツァ
- エキメニカルな諸宗教の神学に向けて H・キユンカ
- 至高体験—東洋と西洋— R・パニカー
- 主の祈りとモーセ五書 N・ローフィンク
- (第二回)『正教神学概論』—創造— V・ロススキ

上智大学神学会
神学ダイジェスト編集委員会
東京都練馬区上石神井4-32-11
〒177-0044 Tel & Fax (03) 3594-4349
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

アジアにキリスト教は根づくのか？
古橋昌尚編

今日のアジアの教会における インカルチュレーション



山岡三治

インカルチュレーションの神学の視野

本書は清泉女学院大学人間学部設置一〇周年記念シンポジウムに基づいており、四名の著者がインカルチュレーション（文化的受肉）を扱いながら、キリスト教にとってアジアとは何か、文化とは何か、究極的にはキリスト教の本質とは何かを問うているところが共通して興味深い。

「奪格」の神学

プロテスタント神学者森本あんり氏の「奪格の神学によるアジアのキリスト教史的な再定位」によれば、七〇年代に論じられた始めたアジア神学にとっては西洋の神学を宣教地の文化的土壌にどう適合させようとするかを研究の対象としていた。ところが現在のアジア神学はアジアを「世界史の舞台に」歴史的に「自己展開したキリスト教の最終到達点」と捉え、このアジア「という起点から」神学を再構築する試みであり、「属格」ではなく「奪格」の神学である。ジュン・ユン・リーは陰陽論を用いて三位一体論の再表現を試み、聖霊が全被造物のために苦しむ「慈愛の母」「母神受苦説」を提唱している。北森嘉蔵によれば、

ギリシア的な教義に欠けているのは、旧約聖書のエレミヤ書にある神の犠牲的な愛の痛みであり、「神が痛み給う」ことこそが三位一体論の核なのであって、「父が子を生む」という言葉は「父が子を死なしめる」という「第一次的な言葉」に他ならない。ただし、忘れてはならないのは、三位一体論は初代のキリスト者たちがナザレのイエスに救いの力が現臨していることを経験し、共同体の信仰体験に合理的な説明を与えようとして定式化されたものでもあることである。

カトリックのインカルチュレーション

「今日のアジアにおけるインカルチュレーション——カトリック教会の視点から」（増田祐志）によれば、教会の歴史はインカルチュレーションの失敗の歴史でもある。ガリレオ裁判であれ、フランス革命であれ、また近代のヨーロッパにおける教会と社会との関係であれ、人々の意識や知的枠組みへの受肉の失敗の典型であった。しかし、第二バチカン公会議とそれ以降ではようやくカトリック教会は自己存在目的を「全世界のため」と位置付け、大々的な現代世界へのインカルチュレーション

の試みを踏み出した。アジアの視点に立ち、全世界のキリスト教にも示唆を与える『アジアにおける教会』（ヨハネ・パウロ二世、一九九八年一月）はその一つの実りである。

負の痕跡から解放するフィリピン神学

「ホセ・デ・メサの『積極的評価の解釈学』——文化の再評価とインカルチュレーションの実践」（古橋昌尚）によれば、ホセ・デ・メサの経験の神学は、第一に「脱痕跡化」（植民者から植えつけられてきた否定的自画像の払拭）であり、たとえば主の復活はイエスの「名誉回復」と捉えられる。第二にフィリピン民衆の「感性」の上に立つことである。たとえば民衆に親しまれている言葉に「このころ」（loog）があり、「みこころが行われますように」は「神の善き心」を我々の心とすること、神は善そのものであることである。日本語でいえば、人々の知性と心情、文化や生活に「しっくりくる」、または「腑に落ち

る」ものでなくてはならないということであろうか。

モンゴルのキリスト教とその背景

バイカル氏「報告 モンゴル国のキリスト教の過去と現在」によれば、モンゴルではネストリウス派キリスト教が伝来した一世紀以降、国民の半数がキリスト教徒だったこともあり、また平和は忍耐強い宗教間対話によってこそできると考えた現代的な首長もいた。一九二四年以降は「宗教はアヘン」という指導思想のもとで苦難の時期もあったが、多くの（女性を含む）プロテスタント医療伝道者らの貢献により、次第にキリスト教が受容されるようになった。現在は外国の文化・宗教がますます浸透してきており、モンゴル人がどういう生き方を選ぶかは今後のインカルチュレーションを考える上でも参考になるであろう。

（やまおか・さんじゅう上智大学神学部教授）
（四六判・一四八頁・本体一八〇〇円＋税・教文館）



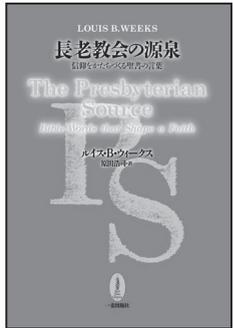
長老教会の源泉

信仰をかたちづくる聖書の言葉

ルイス・B・ウィークス

Louis B. Weeks

原田浩司*訳



聖書に傾聴することをとおしてこそ、わたしたちの教会を——養い支える明確な教え——受肉、神の霊が共におられるという約束、永遠の命の希望、この世に対する責任、福音宣教の必要性——が示される。

A5判

定価【本体 2,000 + 税】円
ISBN978-4-86325-064-2



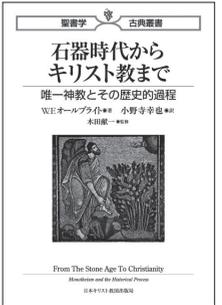
株式会社 一麦出版社

札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888

http://www.ichibaku.co.jp
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

啓示の上に立つ聖書の独自性に立ち戻る古典的名著
W・F・オールブライト著
小野寺幸也訳、木田献一監修

石器時代からキリスト教まで 唯一神教とその歴史的過程



池田 裕

本書は、聖書考古学を含む古代オリエント学の発展に大いなる貢献を果たした二十世紀の「巨人」、W・F・オールブライト（一八九一—一九七一年）の名著の邦訳である。著者は、人類がいつ宗教に目覚めたのか、唯一神教はどのようにして生まれたかを、人類学、社会学、哲学、宗教学、オリエント学、言語学等、幅広い視点と文脈から、歴史家トインビーのイスラエル・ユダヤ教理解や心理学者フロイトのモーセおよび一神教理解、あるいはE・ハンティントン近東の宗教生活における地理的要因の強調などに批判を加えながら論じる。

全体は緒論、本文、エピソードから成り、本文は、第一章「歴史における新しい地平」（A 考古学における革命、B 古代近東文書資料の発見と解釈、C 古代近東出土の非文書資料の発見と解釈、D 口誦と文書による歴史の伝達）、第二章「有機的歴史哲学を目指して」（A 歴史哲学の一般傾向、B 歴史的決定論の現今の諸側面、C 歴史の認識論、D 歴史の基底にあるいくつかの基本原理、E 有機的歴史学を目指して）、第三章「ブラエパラテオ（準備）」（A 最古の時代から紀元前

十七世紀までの近東における物質文明の発達、B 前期および中期青銅器時代の宗教生活・①原始宗教の本質と発展、②紀元前三〇〇〇年から一六〇〇年までのエジプト宗教、③紀元前三〇〇〇年から一六〇〇年までのメソポタミア宗教）、第四章「イスラエルが子供であったとき……」（ホセア書一・一）（A イスラエルの諸起源に関する古代オリエントの背景、B イスラエルの諸起源のヘブライ的背景・①地理的、人種的背景、②宗教的背景、C モーセの宗教・①文書資料、②イスラエル諸伝承の歴史的基礎、③モーセと唯一神教、第五章「カリスマとカタルシス（霊の賜物と浄化）」（A イスラエルのカリスマ的時代、B 統一王国とカリスマ的預言者運動の開始、C 分裂王国とカリスマ的預言者・①恍惚預言者の時代、②吟遊預言者の時代、D カタルシス）、第六章「時満ちて」（ガラテヤ四・四）（A ギリシア文化の台頭と拡散、B ユダヤ教とヘレニズム時代の宗教生活、C ヘレニズム時代のユダヤ教における非ギリシア的潮流、D キリストなるイエス・①文書資料、②イエスの宗教）の六章に分かれる。

本邦訳は、二十五年前に四十七歳の若さで亡くなった小野寺幸也氏（すでにオールブライトの他の二作品を翻訳）の遺稿を、青山学院大学院時代に氏の指導教官であった元山梨英和学院院長木田献一氏が監修、昨春、監修者自身の死の直前に出版された。「監修者のことば」において、木田氏は特に聖書記述の歴史性に懐疑的な学者たちに対し、「聖書学が扱っているのは歴史と言うよりは宗教の伝承である。イスラエル宗教は『超越者の啓示』という超越的源泉を持つ。アブラハム、モーセの受けた啓示という源泉が、現代に生きる我々にまで伝承されているのである。この超越的源泉を共有していると信じているところに、聖書と他の古代文書との違いがある。権力の伝承は超越性を欠いているので、元の権力基盤がなくなれば解体してしまう。イスラエル宗教の根柢である啓示を認めなければ、それは……：現代人とは何ら直接の関係を持たない単なる神話伝承の集成にすぎなくなってしまう」と語る。そしてさらに、確かに理性の

立場からは「啓示」はつまずきの石となるが、「しかし、あえて理性に逆らい、つまずきを受け止め、超越性を認める。やはり啓示を否定した自由主義神学に対抗して神の啓示を認めたバルトの弁証法神学のように、オールブライトは聖書学においても近代主義に反発し、石器時代にまで遡る根柢を持ちつつ、啓示伝承を認め、超越者の啓示が発端となる唯一神教は、単なる歴史主義で研究しうる他の宗教とは根本的に違うという視座に立っている。その基本姿勢にこそ、オールブライトのこの古典的名著を現代に刊行する大きな意義がある」と主張する。

訳者と監修者、優れた両研究者の労に感謝し、本書の刊行を心から慶びたい。

（いけだ・ゆたか 筑波大学名誉教授）

（A5判・四四八頁・本体六〇〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）

異質な言葉の世界

洗礼を受けた人にとつての説教

W・H・ウィリモン 上田好春 訳



洗礼を受けた者に広がる「異質」な世界。洗礼の意味、受洗者の回心と覚悟、変えられる喜びが語られる。
四六判・232頁・2376円

社会の周縁に置かれた人物や背景に迫る

沈黙の声を聴く

マルコ福音書から 絹川久子



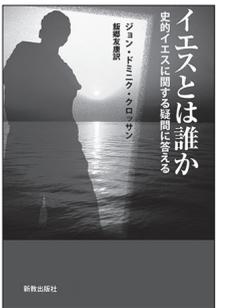
聖書に描かれる弱者や女性たちを押し、社会から遠ざけていたものは、イエスの声に耳を傾ける。
四六判・262頁・2700円

CD版 讃美歌21による
礼拝用オルガン曲集
第3巻 詩編と頌歌
飯 靖子 / 志村拓生 演奏
楽譜版の全36曲を曲集の編者が演奏した模範演奏CD。各曲の演奏に使用したストップ・リストを収録。
36曲収録・1,944円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyoubp@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)
<http://bp-uccj.jp>

徹底的に人々の痛みに関わったイエス
 ジョン・ドミニク・クロッツサン著
 飯郷友康訳

イエスとは誰か 史的イエスに関する疑問に答える



島蘭 進

キリスト教徒ではない私がこの書物に強くひかれたわけをまず述べよう。研究生生活を始めた頃の私は教祖研究に関心をもち、主に日本の新宗教に関わってだが、教祖研究と実存的な自己理解との関わりという問いに没頭した時期がある。「金光教学と人間教祖論——金光教の発生序説」(筑波大学哲学・思想学系論集)第四号、一九七九年)という論文は、そんな私の宗教学研究の足掛かりとなったものだ。

クロッツサンの『イエスとは誰か』(原著は一九九六年刊)は、私の拙い若書きの論文と比較するのは申し訳ないようなこなれた著作である。生涯をかけて至りついた熟達した学問的成果、およびそれと表裏一体の信仰的境地が分かりやすく描き出されている。だが、一人の人間の心の歩みの中に、多くの人々を導くに至る信仰の核心を見ようとするという点では、若年以来の私の問題意識に相通じるところがあると感じられた。現代人にとって教祖の信仰を受けいれ教祖を信仰すること、あるいは共鳴し近くにいなながらも信仰はしないというのはどのようなことなのか、あらためて考えさせられることとなった。

とができる「信仰の身体」がやせ細ってしまうことにならないだろうか。

大学教授として史的イエスの解明に取り組んできたクロッツサンの答えはこうだ——徹底的に現実世界の人々の痛みに関わっていくこと、イエス自身もついていたかもしれないような豊かな社会的実践の関心を通して、信仰世界を充実させることができる。福音書から読み取れるのは、そのようなイエス像だというのが学問的成果で、社会的実践を導ぶクロッツサン自身の信仰のあり方に合致している。それはまた、解放の神学と親近性をもつものであることも自認されている。私個人は大いに共鳴するところだが、それが多数者の支持するところとなりうるかについては少々疑問が残る。社会的参与の姿勢と幅広い人々をひきよせるコスモロジー的儀礼的な要素とが共存するような信仰のあり方は、史的イエス研究から導き出せないものだろうか。これは現代の新約学や初期キリスト教研究に通じている方に教

新約聖書ではイエスが神話的な物語を通して語られている。そこでは、イエスは十字架にかけられることで人類の罪を贖い、三日後に復活し天に上がり墓は空になっていたと語られている。この贖罪と復活を語る神話的物語を事実として信じていることがキリスト教の信仰の最低限の前提だとふつう考えられている。聖書の叙述を字義どおりに信じていることを求める福音派はもちろんそう考えるだろうが、福音派ではないキリスト教徒もなかなか「それを事実としては信じない」と表明はしない。

だが、あえて贖罪と復活を事実として信じているのではないと表明する立場をとり、積極的なイエス像とキリスト教信仰を示す教派、論者はどれほどの影響力をもちうるのか。「人間教祖」としてイエスを捉え、だがそこに超越的な次元をもったキリスト教信仰を提示するとすれば、どれほど人の心を揺り動かすことができるだろうか。これはブルトマン以来の「非神話化」とか、かつて私などが荒井献や田川建三から学んだ「史的イエス」の探求という問題を思い出すことになる。だが、「人間イエス」に焦点をあてるとき、神話や儀礼や象徴こそが支えるこ

えを乞いたいところだ。
 本書の魅力として、クロッツサンという人が率直に素顔を見せて読者に語りかけようとしていることをあげたい。「序」では、アイルランドの小さな町に育ち、カトリックの修道会に入り、二〇年後に還俗し、アメリカで大学教員として研究しながら「イエス・セミナー」という研究団体を営んできた自己の歩みが素描されている。イエス・セミナーでは、討議のまとめに、イエス自身の言葉として捉えられるかどうかを無記名投票で決め、それを公開するという。本書も開かれたフォーラムを志向しており、読者からの手紙の一部がたくさん紹介されている。いかにも学者らしい人ではあるが、それにしては切れば血が出る現実の中で生きる姿勢に重きを置き、そこでの経験を学に戻そうとする、そんな信仰者探求者としての姿が浮かび上がってくる。(しまの・すすむ「東京大学名誉教授、上智大学教授」(四六判・一九二頁・本体一九〇〇円+税・新教出版社)

新教出版社

新教タイムズ
ブリチャード編
日本語版監修 荒井章三
山内一郎他

聖書歴史地図

B4判・272頁
本体26214円

壮大で立体的なカラー地図と図版600点に詳細な聖書時代史を配し、聖書学・考古学・オリエンタル学・言語学の総力を結集した画期的成果。学校、教会に必携。

ワイゴーター編
日本語版監修 荒井章三
山内一郎

カラー版 聖書大事典

菊倍判・1100頁
本体39806円

4千以上の聖書用語を71名の専門家が的確に解説。総カラー1頁。

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
 TEL: 03-3260-6148
 Email: eigyo@shinkyō-pb.com

新来者への お・も・て・な・し
八木谷涼子著

もつと教会をいきやすくする本 「新来者」から日本のキリスト教界へ



小嶋 崇

本書の書評依頼が寄せられた時、またまた驚いてしまった。元はと言えば、著者の八木谷さんが筆者の教会を訪れた時のことに始まる。昨年十一月のある日曜礼拝のことであった。その日の朝、礼拝前、何の前触れもなく玄関でご本人が現れ「八木谷です」と名乗られた時、「あつ本物が来ちゃった」と軽い衝撃が走った。

実は筆者の教会ブログに「教会ミシユラン・ガイド？」と題した記事を書いて八木谷さんのウェブサイトを紹介していたのだった(二〇一〇年九月)。ということは遡ること丸々三年、「新来者対応」について改善する時間があったのだ。(それがほとんど出来ないうちに)「ついに著者本人が視察に『ご登場』とまでは思わなかったが……。どんな感想を言われるかな、とドキドキ待機していたら、「看板が出ていないですね。一回前を通ったのですが、なぜ出ていないのだろうと首をひねったのです。今回来た時もやはりないのでどうしてかな」と思いました」との言葉を頂いた。そしてその週、『もつと教会をいきやすくする本』出版販売情報がツイッターに流れ始めたのだった。筆

者としてはダメ出し教会の参考例にされたかな、とヒヤヒヤだった。

後日談はそこまで。さて本書はタイトルどおり、教会が新来者にとって「いかに参入障壁の低い場所となり得るのか」という課題に対する丁寧な解説書、指南書、という事が出来るだろう。世間は客の来なくなったラーメン屋に対しても「コンサルティング業」のようなことが成立する「高度サービス業社」である。単に「美味しい」だけでは集客できない、雰囲気や品揃え、店長や店員のテンションの高さ、などなどサービスが多面的に評価され、それを如何に総合的にプロデュースするか、という時代になりつつある。既にレストランの「ミシユランガイド」は二〇〇七年に登場した。

こうした「おもてなし」策をひねり出し練り出して顧客獲得競争をしている業界と比較した時、教会は如何に遅れているか、取り残されているか……。そんなサービスの熾烈な戦いのことなどてんで気にしてない方(主に牧師か)には、頭をガーンと一発殴られたようなショックを受ける(とも限らない)本で

はないかと思う。

伝道の最前線となる「外看板」についても、イラスト入りで様々なアイデアや注意が盛り込まれた提案がなされている。しかるに現実にはしばしばハードもソフトも「ほったらかし」になっっていないか、と痛い所を衝いてくる。

新来者が礼拝に来た時の対応に関しても、実に細かく段階的に考えるべき点を提示している。例えば「新来者カード」。どの程度新来者の方に「自由選択度」があるのか。カードへの書き込みは当然と教会側は思っている、新来者は半ば強制的と感じないだろうか。礼拝中の「新来者紹介」時も「名前を呼び上げられない」を選択できるような配慮はなされているだろうか。もう一度「新来者カード」という習慣が「参入障壁」になっっていないかどうか、チェックしてみるのも一考だろう。

会堂での着席に関しても、新来者の多くは「目立ちたくない」方が多いことを今一度想像してみよう。その際、「信徒の

後部座席指定化現象」を反省してみるのもよいだろう。

いくら信仰・礼拝が「内心の自由」に関わることだと言え、建物及び集会は公的宣教の意味も持っていることを特にプロテスタントの方々はよく考えてみようではないか。看板・週報・案内パンフレット・ウェブサイト等々、パブリックサイドから見える部分についてよく注意し配慮することから「宣教」最前線の「たたかき」を始めるのはいかがだろうか。

(こじま・たかし)日本聖泉基督教連合会鳥鳴聖泉キリスト教会牧師
(A5判・九八頁・本体一五〇〇円+税・キリスト新聞社)



新刊

神の元気を
取り次ぐ教会



神の元気を 取り次ぐ教会

説教・教会暦・聖書日課・礼拝

石田 順朗 著

●四六判並製 ●定価1,260円

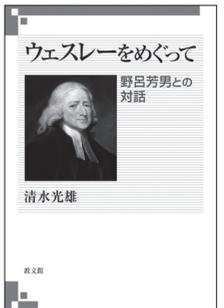
戦後再開した鷺宮・日本ルーテル神学校卒業の還暦を迎えた折に、この間「神の元気」を分かち合ってきた兄弟姉妹がたを覚えて、宣教、説教、牧会、礼拝学の分野で習得した資料と体験をまとめることを決意した。(「あとがき」より)牧会者と会衆が共に、「説教・教会暦・聖書日課・礼拝」を学び、神の元気をいただくための入門書。

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

ウエスレー神学の中心は何か？
清水光雄著

ウエスレーをめぐつて 野呂芳男との対話



岩本助成

「野呂芳男先生、本当にありがとうございます。」本書は恩師への感謝のこぼれで結ばれている。長年、静岡英和学院大学で教鞭を取った著者、清水光雄が、敬愛する野呂芳男に対し「ウエスレー神学の中心は何か」をめぐつて神学的対話を試みた書である。師への感謝は、手ほどきを受けたジョン・ウエスレー神学に関する師の諸著作を精読することから始まり、野呂神学と真摯に対質することを通して神学的貢献を批判的に継承していくことで実っている。野呂がこの精緻な批判的考察にどのような応答をされるか、を考えつつ読んだ。

二人は敬愛し合うゆえに、時に厳しさを見せる神学的対話を形成できた。懇懇無礼に終始する研究者間の交わりも少なくない。対話の困難を熟知するゆえにこそ、それを止めない二人の神学者の交流はうらやましい限りである。野呂の神学著作を誰よりも愛読し理解する高弟として、師の代表的著作をして語りしめる手法を用いながら、この神学的対話が世に問われた。

著者は「ウエスレー研究者であると同時に著名な組織神学者でもあり、ウエスレー研究を通して組織神学を形成した優れた

研究者」と師を評価する（一三頁）。野呂芳男は、戦後、ドルー大学やニューヨークのユニオン神学校で学び、マイケルソンなど指導的学者と親交を結び、青山学院大学や立教大学で多くの学生を教えた。江戸下町育ちの彼は、神学的発想や展開において、随所で精巧な職人芸ともいえるべき洞察を披露し、ウエスレー神学を底流としつつ、実存論的神学、終末論と倫理、民衆宗教へと研究を発展させた。二〇一〇年四月の逝去に至るまで、その学的貢献や牧会活動は、多くの読者や指導を受けた人々に受け継がれ、神学的影響力は、いよいよ増して行くに違いない。

清水は、まず、この神学的対話を理解するための基本的な知識を提供する。続いて、「先行的な恵み」のほか、野呂芳男のウエスレー解釈に多くを負いつつも、著者自身、野呂の解釈のどこにウエスレー理解の相違点を持つのかを、「野呂芳男のウエスレー関連の著作」、「ウエスレーの聖霊論と認識論」、「野呂芳男のウエスレー解釈」の三章で繰り返し詳論している。

論点のいくつかに触れると、野呂の理性的認識論の傾向が強

いウエスレー解釈に対して、著者はウエスレーが情感的、心理学的な認識論に立つと解釈する。清水はイングリッド宗教思想の研究者として国際的な評価を得ており、既刊の著作に加え、本書でもロック解釈ほかで思想史研究に光彩を放つ。

著者は「義認と聖化、信仰と愛、瞬間性と継続性、理性と情感（気質形成）、敬虔の業と憐れみの業、西方教会と東方の霊性の二重性をウエスレー神学のキーワードと捉え」（四八頁）、野呂のウエスレー神学の強調点が、上記の前者に偏ってはいないかと疑義を呈する。実体的よりも主體的決断を強調した野呂の「楕円形の神学的強調点」が、個を徹底して決断の神学へと強調点を進めたのに対して、清水は一九八〇年代以降のウエスレー研究の傾向に着目し、ウエスレー自身が初期から神学的円熟期までを通じ、東方思想に通暁し、その理解を深めていった事実を詳述する。「神化」における神秘主義的逸脱を警戒した野呂に対し、清水は聖化や確証の神学的理解、さらに、キリス

ト者の完全で治療的救済論を展開したウエスレーへの解釈を掘り下げようとしている。

個人的な救済と共に、社会的な貧困者や病者の救済を含む自立支援活動に生涯をささげたウエスレーを著者に明示している。わたしには対話するふたりの神学者が、研究と生き方において似通って見える。ふたりをこれほどまでに惹きつけるウエスレーとその神学への関心を改めて呼び覚まされるのは、評者ひとりであろうか。

（いわもと・すけなり 日本フリーメソジスト西田辺伝道所牧師、前日本ウエスレー・メソジスト学会会長）

（四六判・二五四頁・本体三五〇〇円＋税・教文館）



キリスト教書総目録 2014年版

創刊25周年記念特集号

巻頭カラー
佐藤 優氏 橋爪 大三郎氏
若松 英輔氏

総記年鑑 辞(事)典 図説年表 全集(著作集) 叢書 講座 聖書 聖書学 神学 宗教学 思想 倫理 伝記(ライオン) 信仰 入門書 人生論 説教集 文学小説 評論 カラー 詩 劇 音楽 美術 建築 教育 保育 心理 社会福祉 児童 絵本 讃美歌 式文/DVD CD カセット ビデオ/キリスト教関連雑誌 新聞 書名索引/著者索引/掲載出版社名簿

■ A5判 一般頒価1冊300円 送料240円
■ お近くの書店様でお求めください。

キリスト教書総目録刊行会
事務局 〒162-8710 東京都新宿区
東五軒町6-24 トーハンビル内
TEL.03-3266-9521

風なき海を漂う教会に新たな「プニユーマ」を

関西学院大学神学部編

関西学院大学神学部ブックレット6

若者とキリスト教

第47回神学セミナー



吉岡恵生

「教会に若者がいない」。この嘆きの声は今や呪文のように各地の教会に響いている。多くの教会が「青年伝道」の必要性を感じ、そのために「何か」をしなければならぬと感じているのである。しかし、その「何か」が分からない。古びた看板のように「青年伝道」という言葉だけが、輝きを見出せぬまま掲げられ続けているのである。しかも、状況はこれほど逼迫しているというのに、「若者とキリスト教」というテーマに真剣な取り組みを見せる著作は多くない。

そのような中で、待望の直球勝負を挑むブックレットが誕生した。それが本書である。本書は関西学院大学神学部が開催した第四七回神学セミナー「若者とキリスト教」（二〇一三年二月一八、一九日開催）の講演と礼拝を収録したものである。

関西学院大学神学部学内講座委員長である神田健次氏は、「あとがき」において次のように記している。「今日の教会は、若者が減少しているという深刻な状況に直面しています。セミナーでは、このような状況を少しでも打開する糸口を見出すために、若者を受け入れる教会の在り方をもう一度問い直し、ま

た若者への新たなアプローチを探ってみました。（中略）何よりも一人でも多くの方に共有していただき、それぞれの場において受け止めて、さらなる討論と実践を喚起していただければと願ってやみません」。本書の性格を実に端的に表している言葉である。

若者を教会に呼び戻すための特効薬があるならば、各地の教会が既にそれを手にしていることであろう。しかし、そのようなものは未だ発見されていない。だからどの教会も、共通の悩みを抱えて足踏みをしているのである。ただ、足踏みをしているだけでは何も始まらない。今教会がしなければならぬことは、「若者を受け入れる教会の在り方をもう一度問い直すこと」であり、その問いをきっかけとして、「さらなる討論と実践を喚起していくこと」なのである。本書はそのきっかけを読者に与え、風なき海を漂う教会に、新たな「プニユーマ」を与えてくれるに違いない。

基調講演者は新進気鋭な季刊誌として知られる『Ministry』（キリスト新聞社）の編集長、松谷信司氏である。松谷氏はそ

の講演の中で、種々様々なデータを提示しながら、現代日本社会に生きる若者の「生感」を明らかにし、その若者のニーズに応え得る教会の在り方を模索している。若者が教会に来ない理由を、社会のせいだとか、時代のせいだとか、若者たち自身のう言葉やこの業界でも何回耳にしたことであろうか。しかし、松谷氏はそれらの「言いわけ」を、あらゆるデータを基にしたがら「確実に潜在的なニーズはある。しかし、それに応え得るだけの意欲と体力が今日の業界には残されていないのでしょいか」と爽快に一蹴する。多くの若者が居場所を求め、心の平安を求めている。多くの若者が目に見えない何かを求めている。教会はそのニーズに応えなければならぬ。「若者がいないと叫ぶ教会」から、「若者の叫びを聞く教会」へと変えられていかなければならない。松谷氏の言葉を通して、私たちは目を開かれ、目の前に広がる大きな可能性と希望を見せられるのである

る。本書にはまた、神学生や若手牧師、学者たちそれぞれによる経験談と神学的問いかけがなされている。「現場の声」が描き出す現実、実に多様で興味深い。どれ一つとして、同じものはないのである。凝り固まった神学ではなく、伝統に縛られた教会形成でもなく、ぶれないものを持ちながら、多様で柔軟な教会の在り方を模索して行く。そこにこそ、神のダイナミックな働きが顕わされるのではないだろうか。多くの教会が本書を一読し、各地で若者への新たなアプローチがなされていくことを期待したい。

（よしおか・やすたか 日本基督教団霊南坂教会牧師）
（A5判・一五二頁・本体一五〇〇円＋税・キリスト新聞社）

●2013年1月号から前月号まで、ホームページで閲覧できます。

今すぐアクセス!

本のひろば ホームページ

<http://www.bunshyo.or.jp>

「キリスト教文書センター」のホームページから書評誌『本のひろば』をクリックしてください!

一般財団法人
キリスト教文書センター
〒162-0814 東京都新宿区
新小川町9-1
TEL・FAX 03-3260-6520

■教文館

はじめてのボンヘツファー

S・R・ヘインズ、L・B・ヘイル著／船本弘毅訳
第二次大戦下のドイツで、ナチスに対しては徹底した抵抗運動を繰り広げ、教会に対してはラディカルな問いを投げかけたボンヘツファー。彼の生涯と思想をユニークなイラストと共に紹介する。

四六判・224頁・本体1800円

アウグステイヌス神学著作集

——キリスト教古典叢書

アウグステイヌス著／金子晴勇、小池三郎訳
異端との論争で体系化した恩恵論およびサクラメント論をめぐる著作を中心に収録。主著と共に、アウグステイヌスの神学思想を理解する上で不可欠の書。

A5判・752頁・本体6800円

■日本キリスト教団出版局

並木浩一著作集3 旧約聖書の水脈

並木浩一著

モーセの生涯や、預言者たちの批判と幻、雅歌が伝える愛と喜び等に注目しつつ、旧約聖書を貫く流れ、「水脈」を追うと共に、旧約聖書の現代的意味を問う。

A5判・350頁・本体4000円

マタイ福音書を読もう2 正義と平和の口づけ

松本敏之著

病人の癒し、福音の告げ知らせといった、ガリラヤ周辺におけるイエスの活動と言葉を、聖書の時代背景を踏まえつつ、平易な言葉で説き明かす。

四六判・234頁・本体1800円

INFORMATION

近刊情報

■キリスト新聞社

落ち穂ひろいの旅支度

芳賀 力著

神学者として注目を浴びる著者が、編集主幹を務めていた季刊『教芸』に綴ってきた神学的随想集。

四六判・190頁・本体1600円

■新教出版社

神と意味（仮題）

V・フランク、P・ラビーデ著／芝田豊彦、広岡義之訳
精神科医でロゴセラピーの創始者フランクと、ユダヤ人宗教哲学者ラビーデとが、神の探求と人生の意味への問いについて交わした実存的対話。二人の立場の微妙な相違が生み出す緊張が興味尽きない。

四六判・200頁・予価2500円

フランクルの宗教的人生論（仮題）

広岡義之著

アウシュヴィッツの過酷な経験を生き延びて獲得されたフランクルの深い人間観を、とくに聖書との関連で掘り下げて解明した貴重な書。著者は兵庫大学教授。教育哲学専攻。

小B6判・280頁・予価2000円

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1771F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区稲毛2-2-1 様ヶ丘ファッションセンタービル	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3235-5681	03-3235-5682	http://seikokai-publishing.jimdo.com	nsk-bookshop@company.email.ne.jp	00140-8-50880
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://members3.com.home.ne.jp/taishindo/	taishindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491		kiristoku.youshoten@me@ybb.ne.jp	00150-9-595509
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://www7.biglobe.ne.jp/~yldnrcv:ds/uev.html	biblehouse@bible.or.jp	00250-4-2512
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881		sksch@mva.biglobe.ne.jp	00540-6-82826
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00540-6-82826
静岡聖文舎	420-0812	静岡市葵区古庄3-18-12	054-264-0264	054-264-4416		info@s-seibun.co.jp	0810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepage3.nifty.com/seibunstb/	nagoya-seibunstra@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834		kjordan@mbx.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://www11.ocn.ne.jp/~osakabos	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店	591-8044	堺市北区中長尾町2-1-18	072-257-0909	072-253-6132		sakai-x@topaz.plala.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18 三宮ビル2F	078-331-7569	078-331-9833			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0016	広島市中区鞆町7-28	082-228-4914	082-223-0951			01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413		sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbook.net/	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖繩キリスト教書店	901-2134	浦添市港川2-25-1	098-877-7283	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は、日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

新教出版社 福音と世界

2014.7

特集Ⅱ悪を神学する—それ抜きに語れるのか

悪の実体が見えて来るまでには

随分長い戦いが必要であった

渡辺信夫

ヨハネ福音書の悪認識と現代……

三浦 望

根源悪からのエクソダス……

宮本久雄

悪法と自然法……

高島 章

台湾立法院占拠と教会②……

松谷暁介

暗き神—旧約聖書における暴力……

T・レーマー

映画「大いなる沈黙へ」グレーニング監督と鼎談

A5判・本体 588円・送料 70円
Kindle 版も発売中

自民党改憲草案を讀む 自民党改憲草案・日本国憲法付録 横田耕一



私たちはそもそも現憲法をどれほど血肉化してきたか。立憲主義を壊す自民党改憲草案を讀むことで私たちが自身の憲法理解・実践を省み、国家から諸国民に憲法を、取り戻す。

A5判・130頁・900円＋税

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
TEL 03-3260-6148 / FAX 03-3260-6198
WEB www.shinkyō-pb.com

編集室から

巻末を担当させていたたくのも今回で五回目。「そのうちに慣れてきますよ」との励ましも空しく、今のところは、まだ四苦八苦している。そのかわりに、名前を忘れてしまったが、ある作家が「文章を読まれることは、針で開けた細い穴から裸を見られるように恥ずかしいことだ」と語った言葉を思い出して痛感している。

私は美術に興味をもっているので、読書以外にいろいろな絵画や造形をきっかけに広がった知識が多々ある。美術作品もまた作者を投影する。

ジャクソン・ポロックという画家は、聞き馴染みのない名前という方もいらつしやるかもしれない。アキシヨンペインティングの第一人者。キャンバスに絵筆を叩きつけたような、なぐり描きのグチャグチャな画風。失礼だけど誰にでも描けそう。

それでもポロックを愛している人達がいる。それでも鑑定にかかれれば贋作は見破られるそうだ。

美術評論家によるとグチャグチャは、自然界の法則で大きい形の中に、相似する小さい形が存在するフラクタル構造になっているとのこと。アキシヨンペインティングでどうやって作り出すのかは今でも謎らしい。

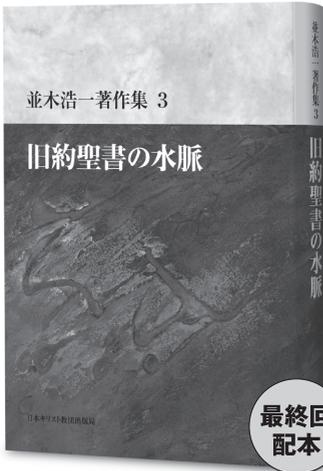
さらに、残されている制作風景の映像から、描き始めは天地創造だという見解があり、その行程が潜在意識を刺激するのではないかという解釈がある。もともと、作者は何も語らず亡くなっているのだ、こちらも真実は闇の中。

しかし、明らかに計算して何かの形を描いているので、そこには作者の本質が如実に表現されているのではないかと思う。ポロックを通して知ったフラクタルは生物の体内にも存在し、さらに研究が進めば宇宙の成り立ちが分かるかもしれないと期待されている奥の深い分野。

私たちが未知なる巨大なものと、フラクタルな関係にあったり、投影だったりするのだろうか。

(吉崎)

日本を代表する旧約学者の集大成、全3巻完結!!



並木浩一 著作集 3 旧約聖書の水脈

モーセの生涯や預言者たちの批判と幻、雅歌が伝える愛と喜びなどに注目し、聖書を貫く「水脈」を追う。旧約聖書は現代に意味を持つのか。◆A5判 上製・350頁・4,320円

シリーズ
好評発売中

- 第1巻 **ヨブ記の全体像**
▶A5判 上製・338頁・4,320円
- 第2巻 **批評としての旧約学**
▶A5判 上製・350頁・4,320円

マタイ福音書を読もう2 正義と平和の口づけ

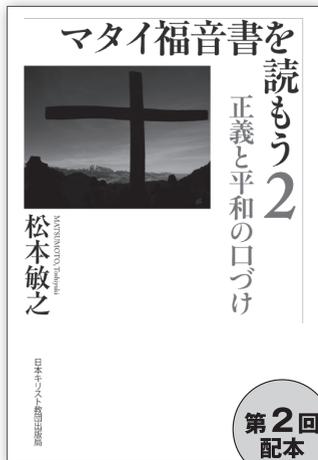
松本敏之

マタイ福音書の通読を導く全3巻シリーズ。第2巻は8～18章を収録し、病人の癒しなどガラヤ周辺におけるイエスの活動と言葉を描く。

◆四六判 並製・234頁・1,944円

シリーズ刊行案内

- 第1巻 一歩を踏み出す ▶好評発売中 1,944円
第3巻 その名はイエス・キリスト ▶2015年2月刊行予定



ホームページ更新情報

キリスト教月刊誌 **信徒の友** 50th 信徒の友

創刊50年記念特設ページを開設予定!

記念企画など、関連情報が一覧できます!

ウェストミンスター大教理問答

宮崎彌男訳



ピューリタンの深い霊性の結実として、時代・地域を越えて多くの人に愛されてきた「ウェストミンスター大教理問答」。混迷する現代社会の中で、神を中心とした聖書的・福音的霊性を養う最良の手引き。

● A5判・100頁・本体1,200円

回帰としてのカトリック

藤原 治



青年時代に教会を離れた著者が、老年期を迎える今、信仰への回帰を試みた「告白」の書。実存的関心に基づいた「自分自身のためのカトリック」論を大胆に展開する。痛快で型破りな神学通論風エッセイ。

● A5判・332頁・本体2,400円

6月の新刊 (価格表示は税抜)



古代キリスト教思想の精神

R.L.ウィルケン 土井健司訳

教会の形成期において人々の心に強く訴えかけ、生活に転換をもたらしたキリスト教的思考とは何か？ その背景をなす礼拝・文学・倫理的生活などを考察し、またオリゲネス、ニュッサのグレゴリオス、証聖者マクシモスら偉大な思想家の言説にも触れ、生命力と想像力に溢れる古代キリスト教思想のエッセンスを平易に説く。● A5判・362頁・本体4,100円

「おめでとう」で始まり「ありがとう」で終わる人生

市川 二宏



「最後まで自分らしく生きたい」という願いはどうしたら叶えられるか。「人はみな祝福された存在」というキリスト教の精神を通して、社会福祉の原点を見つめる。

● 四六判・200頁・本体1,400円

好評発売中！

- 日野原重明『愛とゆるし』 ● 本体1,000円
- 森幹郎『老いと死を考える』 ● 本体1,500円
- 岡山慶子編著『やさしさの暴走』 ● 本体1,300円
- 関啓子『まさか、この私が』 ● 本体1,400円

教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549

本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e-shop 教文館

本のはろは 第六七八号 二〇〇四年七月号

発行所 東京部 新宿区新小川町九一ー一 一般財団法人キリスト教文書センター
電話〇三二二六〇六五〇 振替〇一七〇一五二二六七九
発行人 本村利春 編集人 中川 忠 印刷所(株)平河工業社
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話〇三二二六〇一五六七〇

定価七八円(税抜七二円)(〒62円) 一年分二二〇〇円(送料共)